

コミュニティバスが 運行開始



▲コミュニティバスに乗り込む照山市長
(武蔵町志和利・小園バス停)

路線バスが運行していない地域で、誰でも乗車できる「コミュニティバス」の試験運行が、10月2日(月)スタートしました。

コミュニティバスは、現在路線バスの運行していない地域で、高齢者の交通手段の確保等を図ることを目的に、市内15路線で旧町中心部に向けて一日1往復運行されます。運賃は、3月末までの試験運行中は無料とし、その後は、1回100円とする予定です。

出発に先立ち、国見・国東・武蔵(10月4日(水)に実施)・安岐の会場でそれぞれ出発式が行われました。

国見町大熊毛の影漁港で行われた出発式には、影地区の皆さんや市関係者ら約30名が参加。照山俊一市長が「買い物や病院の通院に大いにご利用ください。」とあいさつ。来賓の豊田宏治市議会議会運営委員長、一宮公人大分県東部振興局長が祝辞を述べました。



▲あいさつする照山市長(国見町大熊毛・影漁港)

式終了後、参加者全員で第1便の出発を見送りました。

今後、国東市ではコミュニティバスの利用向上に向けた取組みとして、コミュニティバスの利用者への聞き取り調査、また、公共交通の現状や今後の対応についてご意見を伺う「国東市公共交通に関するアンケート調査」を11月に実施しますので、ご協力をお願いします。

「国東市公共交通に関するアンケート調査」は、住民基本台帳から無作為に選ばせていただいた20歳以上の市民550名と国東市内の県立高校3校に在学する1年生、杵築高校に市内から通学する1年生、4校合わせて350名を対象に実施します。調査票が送付された方はご協力をお願いします。



▲バス乗客代表とバス運転手に花束が贈られました(安岐町山口・上林バス停)



▲バスの出発を見送りました(国東町深江・深江公民館前)